

<特集:台湾の高等教育における卒業制作・研究>

# 台湾の高等教育における卒業制作に関する研究

南栄技術学院応用日本語学科の「專題製作」を事例として

蕭玉燕

## 一、はじめに

近年台湾では高等教育の普及につれて、人口 2300 万人しかない台湾で大学ランクに当たる学校数は 163 校に上り、さらに長い間若者は「日流」ブームに乗せられているため、日本語学科や応用日本語学科などの数も43校に成長してきた。但し、日本語教師としての我々は嬉しいこととは言えず、少子化の厳しい現実直面しているほかに、入学希望の後半ランクにあたる我々の技術系学校に対する挑戦は一層厳しくなってきたといえる。なぜなら、入学しやすくなって来たため、勉強態度が良く、真面目に勉強する学生数が以前よりずっと減ってきたからである。質を要求することはもちろん無理だし、高卒の資格さえあれば、誰でも入学を歓迎される。即ち、学生募集の競争の激化とともに、高校の専攻とは関係なし、誰でも日本語学科に入れるようになった。

だから、高校で 3 年間日本語を勉強した子と全然勉強したことのない子とが同じクラスにいるのも不思議ではない状況である。

このように、勉強歴の違う学生たち(高校三年日本語専攻とその他の専攻)は同じクラスで勉強するようになる。もちろん、勉強歴のある学生と勉強歴のない学生は一年生の時、レベル分けて別々の教室で授業を受けるが、低いランクの私立学校は経営側の人事コストの問題もあるから、少人数教学は学校側の抵抗がある。だから、現場の教師にとって、この現実をどう克服して、新入生全員の日本語力を引き上げていくのか、教えやすい環境と楽しく勉強できる場をどうつくるのかは、いつもの大切な課題である(文1)。

しかし、学生の勉強態度や資質の差があっても、学生全員の勉強権益を均等に守るため、台湾「教育部」(文部科学省)が求める成果はどの学校にも一緒である。特に近年目立っているのは、「卒業要件」(卒業門檻)と「卒業制作」の必修化が求められていることである。

学生を留めるために、昔のように、全体の 1/2 科目履修単位が2回連続不合格や1回 2/3 単位不合格になると退学という規則がなくなったので、勉強のできない学生も3年生や4年生に上がってくる。どんなに成績が悪くても、ずっといてもらって卒業させないわけにはいかないのので、日本語の「卒業制作」を履修してもらったとき、大変になるのは本人ではなく、指導する教師だといえる。このような日本語の参考資料もあまり読み取れず、日本語の表現力も低い学生に対して、どのように指導して、無事に完成させるかは教師にとって莫大なチャレンジであろう。

このような背景の下、本稿では学生のアンケートや教師の意見を通して、「卒業制作」の実行方法に注目し、実行経験について報告したい。この報告により、本校と同じ問題のある学科の参考になれば幸いである。

## 二、日本語「卒業制作」(專題製作)の実施経緯と状況

本学科は 1994 年に「五専」(高専)の外国語科の日本語組として創立され、その後「二専」と「夜間部二専」も成立された。2004 年(93 学年)に「四技」を成立するために、「五専」や「二専」、「夜間部二専」などの学制を廃止して、短大部の学生募集を中止した。93 学年が応募してきた一回目「四技」部の学生は 34 人で、その中の 7 人は日本語ができない学生であり、全体の約 20%を占める。2008 年と 2009 年は同傾向であったが、その後学生募集競争の白熱化につれ、応募者全員を入学させるようになり、2010 年に「日本語非専攻」出身の新入生はピークの 51.8%に上った。2011 年はやや下がったが、2012 年に「日本語非専攻」の新入生はまた半分を超えた(表 1、図 1 参照)。

表1:本学科「四技」歴年新入生の日本語勉強歴有無の割合推移について

学年 高校 勉強歴	93 学年 2004 年	94 学年 2005 年	95 学年 2006 年	96 学年 2007 年	97 学年 2008 年	98 学年 2009 年	99 学年 2010 年	100 学年 2011 年	101 学年 2012 年
日本語主 専攻	27	31	28	31	35	34	13	22	19
割合(%)	79.4%	86.1%	75.7%	83.8%	74.5%	75.6%	48.2%	66.7%	48.7%
日本語非 専攻	7	5	9	6	12	11	14	11	20
割合(%)	20.6%	13.9%	24.3%	16.2%	25.5%	24.4%	51.8%	33.3%	51.3%
新入生 合計	34	36	37	37	47	45	27	33	39

製表:2012年9月

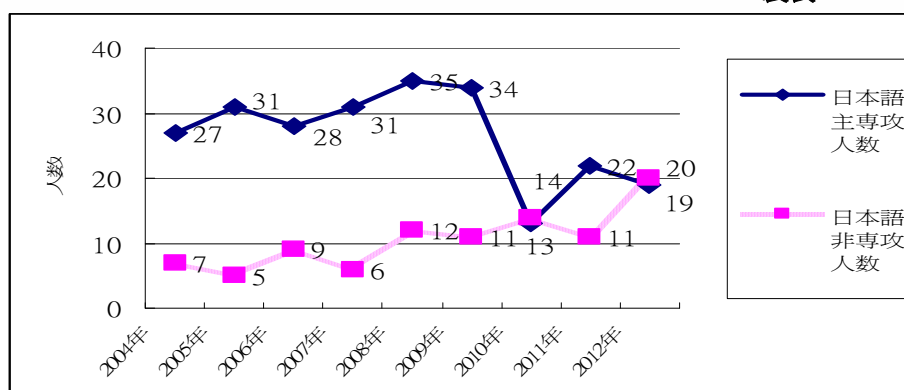


図1:歴年新入生の日本語専攻歴人数の推移

このように、「日本語非専攻」の新入生が2010年から増えてきたことが分かった。但し、高校のとき「日本語主専攻」の学生の成績と勉強態度は必ずしも非専攻の学生より良いとはいえない。入学してくるとき、能力試験3級合格の学生は四年間勉強しても同じ3級程度の学生が少なくない。かえって日本語に対して興味を持ち、こつこつと勉強しているもともと高校「日本語非専攻」なのに、卒業するとき2級に合格できた学生もよくみられる。このように、学生の質と学力という現実的な面もあるから、高学年のとき、日本語で表現する「卒業制作」の指導は教師にとって難しい課題である。

本学科の履修科目表をみると、93学年に入学してきた学部(四技)1回生の選択科目では「專題」(一)(二)がある。94、95学年も同じであった。但し、当時履修したい学生がいなかったため、授業を開くことができなかった。必要履修になったのは96学年からである。履修時期は3

年生の後期と4年の前期である。98学年の後期(2009年8月から)には当時の3年生は「卒業制作」に当たる「專題」(一)の授業を受けなければならなかった。あいにく2009年9月から筆者は日本の大学へ客員研究員として在籍して、1年間台湾にいなかったから、99学年前期で行われた成果発表会に参加できなかった(また当時の授業担当の教師も現在離職)。同僚の話によると、学生たちはきちんと正装して上手に発表できて、勉強になったとこの授業により評価をあげたようである。但し、学生の成果冊子をチェックすると、残念ながら中国語で書いていた。学科初めの卒業制作だが、クラス全員が1人の教師だけで指導したから、指導しにくい面もあったであろうか。

### 三、実際の指導について

#### (一)、99学年の卒業制作について

表 2:99 学年の卒業制作

グループ	研究テーマ	内訳	人数
1	日本的木造建築 (日本の木造建築)	はじめに、定義、本文、結論、 参考文献	4人
2	日本広島市の路面電車 (広島市の路面電車)	動機、定義、本文、現状と課題、結論、 参考文献	4人
3	日本的尼特族 (日本のニート族)	動機、定義、本文、結論、参考文献	3人
4	日本的漫画産業 (日本のマンガ産業)	はじめに、定義、本文、結論、参考文献	4人
5	日本環保車_油電混合車 (日本のエコカー_ハイブリッドカー)	はじめに、定義、きっかけ、本文、まとめ	4人
6, 7, 8	(冊子紛失)	不明	10人

注:指導教員は同1人である(台湾人教師)

99学年6月に卒業した学生たちは教師一人の指導を受けて、採点されたが、後輩全員の前でPPTを見せながら中国語で発表したそうである。日本語学科の卒業生として日本語表現無しで残念な面もあるが、研究レポートの書き方の基礎ができたといえる。従来の受けるだけの伝統授業の進み方と比べると、自主的勉強方法であり、日本に関する興味のあるテーマの研究ができたのは大学生らしい勉強の楽しみが味わえたのではないであろうか。

## (二)、100 学年の卒業生の卒業制作について

実施方法は教師の専攻により、グループ別の学生を受け入れる。即ち指導は全体教師の分担になる。実際の実施状況は下記のようなものである。

1、中間発表:3 年生の後期－採点用の文章は日本語で完成する。発表用 PPT は日本語で作成する。使う言語は特定なし。

質疑:教師から日本語で質問する(3 人の教師で交替して、1-2 問ずつ)。日本語で答えてもらうこと。

宿題:教師の質疑に応じて文章を修正して、1 週間後に提出すること。

採点:指導教員は 60%を占め、他の教師の平均点を 40%にすること。

2、成果発表:4 年生の前期－採点用の文章は日本語で完成する。口頭発表と PPT は日本語限定だが、他のことは中間発表と同じである。

研究テーマと内訳は下記の通りである。

表 3:100 学年の卒業制作

グループ	研究テーマ	字数(約)	人数	指導教官
1	日本と台湾におけるドラマと現実の恋愛パターンの差異－日台大学生へのアンケートを通して－	6,400	1 人	A 教師 日本
2	日本の不登校問題について－不登校に対する認識の変化、諸問題および対応策－	5,700	2 人	B 教師 台湾
3	日本のカプセルホテルについて－台湾でカプセルホテルできるかどうか	8,600	2 人	C 教師 台湾
4	外食ブームに関する研究－健康とゴミ問題を中心に	9,600	3 人	D 教師 台湾
5	關子嶺の観光と交通	5,000	4 人	E 教師 日本
6	携帯インターネット利用における社会問題	12,400	4 人	F 教師 台湾
7	ダイエットブームについて－健康問題を中心に	7,100	2 人	D 教師 台湾
8	日本の少子高齢社会における家族変化について	9,200	1 人	F 教師 台湾
9	台湾原住民の石板屋は世界遺産になれるか－日本の合掌村をモデルにして－	9,900	3 人	C 教師 台湾

10	日本のモンスターペアレントについての考察-用語の由来、社会の背景現状および対応策を中心に-	7,800	4人	B教師 台湾
11	漢字が一緒に読み方が違う苗字(同字異訓苗字)に関する最終報告	11,700	3人	A教師 日本
12	野良犬の行き先-人間と動物がより良い関係での社会実現	5,000	2人	F教師 台湾

注：指導教員一台湾人教師4人&日本人教師2人である。

卒業制作が必要履修であるこの学年の指導は6人の専任教師に割り当てられた。最初の週の授業は日本人教師により、研究方法や調査方法、参考文献の入手方法などを受講させた。基礎の授業を終えてから、それぞれの指導教員とゼミの時間を決めたあと、1週間後最初のテーマを提出してもらった。99学年の卒業制作は中国語であったため、後輩にはあまり見本として参考にならなかった。今まで長い文章を書いたことのない学生たちは最初の一步を踏み出すのはかなり困難であった。よく発生した問題はネットで見つける日本語文章をそのまま貼り付けることや引用することであった。自分のオリジナルを提出するというコンセプトを納得させて、実行するまで、直すのは時間がかかった。

日本語の口頭発表も最初は抵抗があったが、メモを覗いても構わないということでもらった。しかし、皆が一番うまく対応できないのはやはり質疑の返事である。教師からの日本語質疑が分からなかったり、分かっているでも日本語で返事できなかったりして、いろいろな障害が出てきた。さらに緊張して詰まっている学生もいた。また、中間発表や成果発表の時間は4時間ずつであったため、教師と生徒とも疲れてしまった。だが、成果発表が終わった途端、万歳の歓声を叫んだ学生たちをみて、頑張ってくれたとつくづく感じた。

### (三)、101 学年の卒業生の卒業制作について(29 人だが、3 人交換留学中)

実行ステップは100学年と同じである。グループ別の研究テーマは下記の通りである。

表 4:101 学年の卒業制作

グループ	研究テーマ	字数(約)	人数	指導教官
1	塩水におけるバロック建築の観光資源としての可能性—学生と住人の意見を中心に—	6,500	1人	A教師 台湾

2	小琉球の未来の発展についてー観光とエコロジーのバランスー	3,700	2人	B教師 台湾
3	台湾における一般市民の麻薬認識について	8,790	3人	A教師 台湾
4	日台における SNS 利用状況の比較-Facebook を中心に-	8,600	2人	C教師 日本
5	彰化市内への日本観光客誘致に関する調査研究	5,600	3人	D教師 日本
6	地震帯における小学校の地震に関する防災教育意識の比較	5,600	4人	E教師 台湾
7	新営と塩水の地元とその他の地域の大学生における知覚環境ー南榮技術学院日本語学科の学生を中心にー	4,200	3人	E教師 台湾
8	企業への CM 製作への広告視聴率が学生への購買行動に与える意識研究～日台のゴールデンタイムを中心に～	10,200	3人	D教師 日本
9	澎湖のエコを利用した外国人観光客の誘ち可能性の調査研究ー石垣島との比較	7,900	2人	B教師 台湾
10	台湾における電子ブック発展の可能性ー 大学生を中心にー	4,800	3人	C教師 日本

注:指導教員ー台湾人教師 3人&日本人教師 2人。

101 学年の卒業制作は必修履修の三年目だが、日本語で提出する二回目である。100 学年の完成作品の参考もあったであろうか。作品文面の完成度と内容の多元化は前よりずっと良くなった。もちろんオリジナル写真や内容の提出などまだ何組かうまくできなかったが、自分で調査票を作って、実地とネットでのアンケートやヒヤリング調査などの実施はかなり上手になってきた。但し、続けて質をアップしなければならないのは質疑されたときの日本語の聞き取りと応答力である。良くなると将来就職するときの面接にも役に立つのは間違い無い。

#### (四)研究テーマの設定について

学生の研究テーマからみると、近年ネットの普及化に連れて、スマートフォンや電子ブックや SNS 利用などに関心度が高いといえる。またネットの宣伝効果で旅行と観光も若者の目を引く。

さらに自分の生活と関連してくるエコ問題や路面電車、エコカーなどにも高い関心を持っている。もちろん身近な教育や社会問題にも目を向けている。詳しく分類すると下記のようにまとめられる。

研究分野	研究本数	研究分野	研究本数
食、住、交通手段	3	観光レジャー、エコ問題	7
健康問題	2	流行関連	1
教育、社会問題	10	ネット、電子用品関連	4

このように学校の勉強から、外の社会や外国に興味を持つことはもうすぐ大学を卒業して就職する学生たちにとって勉強になるといえる。さらに進んで周りの人々に対する優しい心や気配りを養うことにも大切な一歩である。

#### 四、学生たちの意見について

101 学年の卒業生達に卒業制作を提出した後、悉皆調査法に基づきアンケート調査を実施した。

26 人の中で 23 人が調査を受けた(全員 28 名だが、卒業制作をしたのは 26 人で、2 人交換留学中)。調査の結果は下記の通りである。

(問1)、作業し始めてから毎日何時間かかったか？

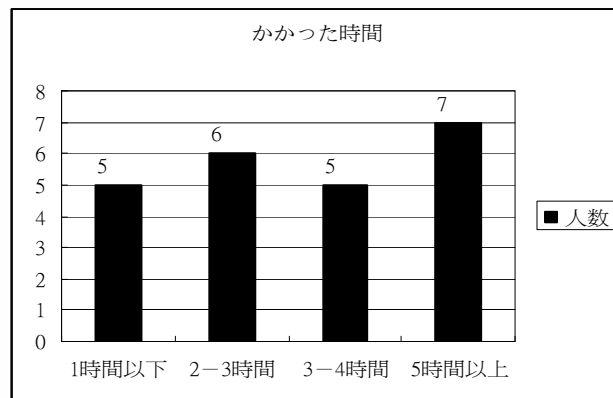


図 2: 毎日卒業制作をする時間数

毎日作文や資料調べなどに使った時間は1時間以下の学生は少数である。2-4時間を使ったのは半分弱で、5時間以上かかった学生も少なくない。皆がこの授業に対して頑張っていると言える。

(問2)、作業し始めると、一番困ったこと。(23人複数回答)

表5:卒業制作をするとき、一番困ったこと

研究方法が分からない	14人
参考文献が読み取れない	7人
チームメンバとの相談時間が取れない	5人
チームメンバが頼りにならない	2人
上手に日本語を書く力が無い	16人
その他	1人

この結果から見ると、学生たちが一番困っていたのは、「研究方法を知らない」と「上手に日本語で文章を書く」ことだと分かった。

(問3)、作業し始めると一番してほしいこと?(23人複数回答)

表6:作業するときしてほしいこと

教師の指導	19人
日本語文章の修正	20人
先生の応援と励まし	6人
チームメンバの協力	15人
その他	1人

さらに、作業し始めると一番してほしいのは順番で言うと「日本語文章の修正」と「教師の指導」と「チームメンバの協力」などである。

(問4)、現在実施している日本語の文章で表現する形を変えてほしいのか。

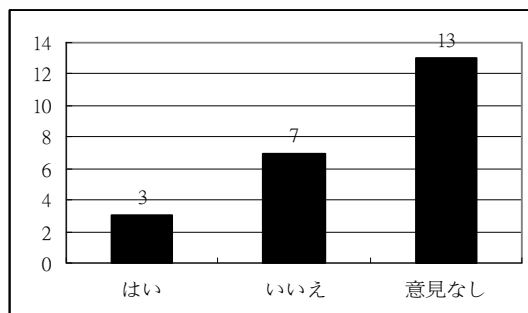


図3:卒業制作の表現に対する希望

ほとんどの学生たちは特に意見が無いが、小部分日本語でうまく表現できない学生はビデオ作成や特技の表現などで文章の代わりに発表したいという意見を表した。

#### (問5)、今回の卒業制作で最大の収穫(23人複数回答)

表7:最大の収穫

チームワークの精神を学んだ	13人
仲間との仲がよくなった	8人
日本語が上手になった	8人
日本語の勉強にもっと興味を持った	5人
自信が増えた	2人
論文の基礎力を身に付けた	15人
大学院へ進学したくなった	1人
自信を失くして収穫が無さそう	2人

卒業制作の完成に連れて、自分が一番感じ取った収穫は上記の表から見ると「論文の基礎力を身に付けたこと」と「チームワークの精神を学んだ」ことが一番目立つといえる。

## 五、終わりに

必要履修になった1回目は中国語で書いたので、日本語で研究レポートを書く自信のない本学科の学生達だったが、その次の後輩たちは一步踏み出して、なんとか日本語で長いレポートを書いたり、発表できたりした。教師達も従来のクラスごとの教学から、1人から4人まで組んでいるチームを指導するようになった。成績の良い国立大や進学希望前ランクの大学では大したことなく、あまり指導しなくても良い卒業制作ができると考えられる。しかし、日本語の参考文献や資料などさえもあまり読み取れない生徒を励ましなが、完成させるまでには時間がかかる。

本学科は2回の指導を経て、今年(101 学年)の卒業制作が前より完成度が高くなってきたことは教師たちにとっても今後励みになるのは間違いない。さらに、一部の研究テーマは続けて探っていくと家庭や社会にも貢献度があり、次の学生には続編としてしてもらっても良いのではないかと日本人教授に薦められたものもある(例えば、「台湾における一般市民の麻薬認識について」)。他にも、地方都市の観光事情調査や特色のある老街の建物調査などはもっと分析し

て役場に提案すれば、地域振興や国の観光にも役に立つのではないかと次のテーマの後継  
ぎも期待された。

締め切りのプレッシャーを掛けられながら、文章の修正を繰り返していくうちに、自分の興味  
を持っている卒業制作が完成できたのは、今まであまり自主的な勉強ができてなかった本学  
科の学生にとって、新鮮なチャレンジであったかもしれない。また、今年の学生にとって助かった  
のは、6人の日本人留学生がいたことである。日本語の相談に乗ってもらったり、日本語の文章  
を直してもらったりして、勉強の楽しみも味わったと考えられる。さらに、大学院へ進学していく  
学生の数も増えてきそうである。日本語の高等教育にとって良い結果ではないであろうか。

ほとんどの日本語学科では既に卒業制作を実施しているが、日本語の学力差のある学校  
では、どう克服して「勉強になった」と感じさせるかは永遠の課題だといえる。本稿はささやか  
な実行体験報告だが、同様に困っている学科の参考になれば幸いである。

(Hsiao Yu Yen 南榮科技大学应用日本語学科)

## 参考文献

- 1、「新入生の日本語能力レベル差の解決策について—南榮技術学院应用日本語学科を事例として—」、蕭玉燕、P61-69、2012年10月20日、南台科技大學应用日本語学科2012年國際學術研討會論文集-大学大衆化状況における日本語教育の可能性—モチベーション管理、多人数クラス、学習効果測定—
- 2、1999年度、2003年度、2006年度、2009年度「台湾における日本語教育事情調査」報告書。財団法人交流協会出版。